

栄養教諭教職課程履修学生の履修終了時における 自己評価の特徴

－「教員に求められる資質能力」について－

栄養科 塩入 輝恵

A Characteristic of the self-evaluation in the study
end time of the nutrition teacher course study student
－ About "qualitative ability required of faculty" －

SHIOIRI Terue

I. 緒言

本学における栄養教諭養成は、栄養教諭制度が創設された平成17年に開始され、すでに10年が経過している。栄養教諭教職課程履修学生は、他教職課程履修学生同様、平成22年度入学生より新設された科目「教職実践演習」を履修することが必須化されている。「教職実践演習」¹⁾では、文部科学省が定める「教職履修カルテ等」の作成が求められ²⁾、本学ではこれに対応するICTを活用した「教職e-ポートフォリオ」が運営されている。青木ら³⁾が行った「教職e-ポートフォリオ」に関する調査報告によると、この作成過程上での各設問項目の内容に対して、肯定的にとらえているとは言えない者の割合を学科ごとに示しているが、栄養学科の教職履修学生では、「履修目的の明確化」が60%、「学修に役立っている」が80%を超えていた。ただし、この結果は、大学4年間の履修途上の中間である2年次終了後に実施された調査によるものであった。

教職履修の評価に関する研究は、評価基準^{4)~6)}、実習校の評価⁷⁾、学生の自己評価^{8)~10)}など、教育実習を中心としたものは散在するものの履修完了時期の評価は多くはない。

「教職e-ポートフォリオ」の内容項目の1つに「教員に必要な資質能力」がある。

平成18年中央教育審議会答申（平成18年7月11日）¹¹⁾による「今後の教員養成・免許制度の在り方について」では、「教員に求められる資質能力」について、1. いつの時代にも求められる資質能力、2. 今後特に求められる資質能力、3. 得意分野を持つ個性豊かな教員があげられ、これらの項目に関する具体的内容が提示されている。現在は、「これからの学校教育を担う教員の資質能力向上について」（平成27年12月21日）¹²⁾が提示されており、教員のキャリアステージ、アクティブラーニングの視点、「チーム学校」の考え方などが強調されている。教員養成校ならびに教員が活躍する教育現場では、どの時代においても「教員に求められる資質能力」についての課題が提起されていることがうかがわれる。

栄養教諭は、学校栄養職員としてキャリアを重ねた者と栄養教諭養成校を卒業した者が、教員として採用され活躍している。管理栄養士または栄養士免許かつ教員免許を取得していることを条件とする栄養教諭の養成にあたっては、その両方の資質能力を育み社会に送り出す役割がある。本学の長年にわたる管理栄養士および栄養士養成の歴史に比べ、栄養教諭養成はまだ10年あまりである。

本研究は、本学の栄養教諭教職課程履修学生の履修終了時期における「教員に求められる資質能力」の自己評価について、平成25から27年までの3カ年間調査を行ないその分析から特徴を捉えるとともに、栄養教諭教員養成における問題抽出および課題提起することを目的とした断面的研究である。

Ⅱ. 方法

1. 調査対象および時期

(1) 対象

平成 25、26、27 年度に栄養教諭教職課程を履修した管理栄養士専攻(大学管士4年生)、栄養学専攻(大学栄養4年生)、短大栄養科(短大栄養2年生)の学生で、いずれも卒業年次に在籍する298名である。その内訳は表1に示すとおりである。

(2) 時期

各年度の履修終了時期に以下の通り1回ずつ実施した。

平成 25 年 12 月 4 日、平成 26 年 11 月 10 日、平成 27 年 12 月 21 日

2. 調査方法

(1) 実施場所：教育実習終了後開講(卒業年次の後期)の「教育実践演習(栄養教諭)」授業教室内

(2) 調査票：VAS(Visual analog scale)法を参考に設問形式の調査書を作成し、これを用いた。VAS法とは、紙面の両端に対照的な項目を記載した10cmの横線に被験者が、感じ方の程度に応じて縦線を書込み左端から長さを測定することで、主観を数値化する方法である。

(3) 回答時間：開始から終了までに要する時間を10分間とした。

3. 調査内容

(1) 「教員に求められる資質能力」について、以下の7領域とその内容28項目とした。

文部科学省が示した「教員として必要な資質能力の指標」を参考に、本学が「教職実践演習」授業の一環として実施した教職e-ポートフォリオ(教職履修カルテ)に用いたものである。なお、栄養教諭の職務には、学級担当が免れているため、7領域の29項目から「学級経営力」を削除した。

- 1) 学校教育についての理解(3項目：1.教職の意義、2.教育の理念・教育史・思想の理解、3.学校教育の社会的・制度的・経営的理解)
- 2) 子どもについての理解(3項目：4.心理・発達論的な子どもの理解、5.学習集団の形成、6.子どもの状況に応じた対応)
- 3) 他者との協力(4項目：7.他者意見の受容、8.保護者・地域との連携協力、9.他者との連携協力、10.役割遂行)
- 4) コミュニケーション(4項目：11.発達段階に対応したコミュニケーション、12.社会人としての基本、13.子どもに対する態度、14.公平・受容的態度)
- 5) 教科・教育課程に関する基礎知識・技能(7項目：15.教科の内容、16.学習指導要領、17.教育課程の構成に関する基礎理論・知識、18.道徳教育・特別活動、19.総合的な学習の時間、20.情報機器の活用、21.学習指導方法)
- 6) 教育実践(5項目：22.教材分析能力、23.授業構想能力、24.教材開発能力、25.授業発展能力、26.表現技術)
- 7) 課題探求(2項目：27.課題認識と探究心、28.教育時事問題)

4. 分析構成と内容

(1) 構成

対象全体、大学管士と大学栄養と短大栄養とした。

(2) 内容

- 1) 「教員に求められる資質能力」7領域自己評価の特徴について (3カ年累計)
- 2) 専攻科別の「教員に求められる資質能力」7領域相互間の関連性について
- 3) 専攻科別の「教員に求められる資質能力」7領域28項目自己評価の特徴について

統計分析

調査票内 VAS 法で描かれ示された数値、10点満点 (max:10、min:0) をそのまま数量化した。

各領域の点数化は、領域内の項目点を合計し、項目数で除して100点換算した。

専攻、科別の各群間比較には t 検定を用いて分析し、有意水準5%未満を有意とした。

Spearman の順位相関係数を用いて、各項目間の関連性をみた。

Ⅲ. 結果

1. 調査票の回収率は100.0%。

2. 「教員に求められる資質能力」7領域自己評価の特徴について (3カ年累計)

28項目の自己評価を領域ごとにまとめ、図1に示した。

100点に換算した各領域の点数は、全て60点以上であった。高い点数の領域は、「(3) 他者との協力」で81.6点、「(4) コミュニケーション」で75.7点、「(7) 課題の探求」で74.8点であった。低い点数の領域は、「(1) 学校教育についての理解」で61.7点、「(2) 子どもについての理解」で61.6点、「(5) 教科・教育課程に関する基礎知識・技能」で60.1点であった。

専攻科別間に有意な差がみられた項目は、「学校教育についての理解」で、短大栄養は大学管士、大学栄養に比べて点数が低かった ($p<0.005$)、($p<0.037$)。また、「課題探求」では、短大栄養は大学管士に比べて点数が低かった ($p<0.042$)。

3. 「教員に求められる資質能力」7領域相互間の関連性について

「教員に求められる資質能力」7領域相互間の関連性について、大学管士、大学栄養、短大栄養それぞれの相関係数を表2に示した。

すべての領域相互間に相関がみられた。

領域相互間で強い相関 (0.7以上) で、かつ大学管士、大学栄養、短大栄養に共通する領域は、「(1) 学校教育についての理解」と「(2) 子どもについての理解」($r=0.715, 0.786, 0.756$)、「(5) 教育課程に関する基礎知識・技能」($r=0.832, 0.780, 0.812$)。「(2) 子どもについての理解」と「(5) 教科・教育課程に関する基礎知識・技能」($r=0.746, 0.769, 0.780$)。「(5) 教科・教育課程に関する基礎知識・技能」と「(6) 教育実践」($r=0.749, 0.700, 0.776$)であった。専攻科別にみると、大学管士では、「他者との協力」と「コミュニケーション」($r=0.713$)、「課題探究」($r=0.737$)。大学栄養では、「他者との協力」と「コミュニケーション」($r=0.712$)。短大栄養では、「コミュニケーション」と「教育実践」($r=0.748$)。「教育実践」と「課題探究」($r=0.731$)であった。

領域相互間で弱い相関 (0.4以下:四捨五入) についてみると、大学栄養での「学校教育についての理解」と「コミュニケーション」($r=0.354$)、大学管士での「学校教育についての理解」と「他者との協力」($r=0.440$)であった。

4. 「教員に求められる資質能力」7領域28項目自己評価の特徴について

大学管士、大学栄養、短大栄養の3カ年の「教員に求められる資質能力」7領域28項目の自己評価を、それぞれ表3-1、表3-2、表3-3に示した。

大学管士の「教員に求められる資質能力」28項目の自己評価をみると(表3-1)、平成26年度に低い点数(6点未満)の項目が多く、この領域は、「(1)学校教育についての理解」、「(2)子どもについての理解」、「(5)教科・教育課程に関する基礎知識・技能」であった。6点未満は平成27年度にはみられなかった。

上位にある項目は、3か年同様に「7.他者意見の受容」、「8.保護者・地域との連携協力」、「9.他者との連携協力」であった。その点はそれぞれ平成25年度では、8.50点、8.64点、8.62点。平成26年度では、8.30点、8.11点、8.15点。平成27年度では、8.22点、8.49点、8.43点であった。下位にある項目は、「2.教育の理念・教育史・思想の理解」で、平成25、26年度それぞれ5.29点、5.15点と同様であったが、平成27年度は、6.39点であった。平成27年度は「6.子どもの状況に応じた対応」6.08点で最低であった。

平成25、26年度に比べて平成27年度で点数が高くなった項目は、「2.教育の理念・教育史・思想の理解」($p<0.001$ 、 $p<0.001$)、と「3.学校教育の社会的・制度的・経営的理解」($p<0.007$ 、 $p<0.002$)であった。また、平成26年度に比べて平成27年度で点数が高くなった項目は、「5.学集団の形成」($p<0.009$)、「4.心理・発達論的な子どもの理解」($p<0.032$)、「17.教育課程の構成に関する基礎理論・知識」($p<0.013$)、「20.情報機器の活用」($p<0.037$)、「21.学習指導方法」($p<0.019$)であった。

大学栄養の「教員に求められる資質能力」28項目の自己評価をみると(表3-2)、平成25、26年度に低い点数の項目は多く、この領域は、「(1)学校教育についての理解」、「(2)子どもについての理解」、「(5)教科・教育課程に関する基礎知識・技能」であった。

平成25年度から年度を追うごとに点数が高くなった項目は、「1.教職の意義」($p<0.004$ 、 $p<0.007$)であった。そのほか、平成25年度に比べて27年度で点数が高くなった項目は多く、「2.教育の理念・教育史・思想の理解」($p<0.002$)、「3.学校教育の社会的・制度的・経営的理解」($p<0.001$)、「4.心理・発達論的な子どもの理解」($p<0.003$)、「16.学習指導要領」($p<0.005$)、「18.道徳教育・特別活動」($p<0.005$)、「19.総合的な学習の時間」($p<0.007$)、「5.学習集団の形成」($p<0.012$)、「15.教科の内容」($p<0.010$)、「20.情報機器の活用」($p<0.046$)、「21.学習指導方法」($p<0.014$)、「23.授業構想能力」($p<0.025$)であった。

短大栄養の「教員に求められる資質能力」28項目の自己評価をみると(表3-3)、平成25、26年度に低い点数の項目は多く、特に平成25年度では5点未満の項目があった。領域で見ると、「(1)学校教育についての理解」、「(2)子どもについての理解」、「(5)教科・教育課程に関する基礎知識・技能」、「(6)教育実践」であった。平成27年度には6点未満の項目はみられなくなった。平成25年度で点数の高かった「8.保護者・地域との連携協力」(7.90点)、「12.社会人としての基本」(7.13点)を除くすべての項目は、平成27年度で点数が有意に高くなっていった。

IV. 考察

本研究は、大学栄養学科と短大栄養科の栄養教諭教職履修学生に対して、履修終了時期に実施した調査分析から今後の教育や支援について検討するものである。青木ら³⁾は、大学全学科の教職履修学生を対象に、履修2年間の学修経験を踏まえた時点での調査を実施している。調査対象や時期は多少異なっているが、本研究結果を照合してみると、「他者との協力」、「コミュニケーション」の領域では、学生の意識または点数が高いことが一致した。一方、逆転していた領域は、「課題探求」である。調査時期が異なることから推察すると、履修終了までの2年間に設けられたカリキュラム上の教職履修に関する専門性の高い科目や教育実習の実践という学修が、「課題探求」領域のレベルを高めたものと考えられる。

短大栄養が、大学管士や大学栄養に比べ点数が低いという、専攻科別において差がみられた領域は、「学校教育についての理解」や「課題探求」であった。これは、履修期間の長短によるものと考えられ、この領域における目標達成には、2年間以上の期間を要することが推察される。

教職課程の学びに対して、大学生と短大学生の意欲や意識、自己評価に関する比較研究は少ない。永嶋¹³⁾は、専門学校と短期大学と大学の看護学生の学習意欲についての研究を行っているが、「学習意欲」、「将来への明確な目標」の評定に関して、短大生は、大学生に比べ高いという結果を示している。これは本研究結果と相反するものである。本研究とは対象が異なり比較照合には適切ではないが、短大生と大学生に相違があることを示唆するものである。

「教員に求められる資質能力」7領域相互間関連性の分析から、専攻科に共通する領域の中心に「教科・教育課程に関する基礎知識・技能」があることが示唆された。この領域レベルを高めることは、「学校教育の理解」、「子どもについての理解」、「教育実践」領域に何らかの影響を与え、連動的レベル向上が期待できるのではないかと考える。高口¹⁴⁾の資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究報告書によると、重視したい「質の高い知識」とは、単に「知っている」だけではなく、「分かって」、「使える」知識という意味であるとし、これを得る学び方は、「しっかり学ぶ」こと－学ぶ内容を断片的に覚え込むのではなく、繋げて纏めて自分なりに納得する学び－が必要であり、学んでほしいことには、「答え」や「答えの出し方」だけではなく、その根拠や理由が含まれ、その学びには、「考える力（いわゆる『思考力』）」が必要であると述べている。このように学生の「思考力」を高めることは、他の領域の向上も図れるのではないかと考える。

専攻科別にみた「教員に求められる資質能力」7領域28項目の分析から、専攻科におけるそれぞれの特徴がみられた。本研究は、年度ごとデータを分析した断面研究であるため、学生の学修追跡には至らない。ゆえに年度間の関連性についての分析結果は、3カ年を通じた、教育や支援をする側の体制や取り組みの成果として捉えることができる。特に点数の低い項目やレベル向上がみられなかった項目については、今後の教育や支援を考える上で重視すべき部分である。

大学管士では、「子どもの状況に応じた対応」、「学習指導要領」、「道德教育・特別活動」、「総合的な学習の時間」。大学栄養では、「子どもの状況に応じた対応」、「教育課程の構成に関する基礎理論・知識」。短大栄養では、「教育の理念・教育史・思想の理解」、「教育課程の構成に関する基礎理論・知識」が着目すべき該当項目であった。

大学管士では、年度間に極端な差はみられなかった。これに対して短大栄養では、年度を追うごとに多くの項目で著しい向上がみられた。これは、調査初年度の点数に関連するものと考えている。初年度6点未満の項目数は、大学管士で4件、これに対して短大栄養では16件と多くみられた。大学と短大の学修期間の2年間の差異とその成果を考えるならば、短大栄養における平成27年度の結果には、学生の過大評価が推察される。

本研究の限界として、「教員に求められる資質能力」7領域28項目についての自己評価の基準が、学生各個人に委ねられているものである。よって、数量化された点数そのものの評価には限界がある。また、断面研究であることから、各学生の自己評価推移を捉えることができていない。よって、今後の課題としては、栄養教諭教職課程履修学生の入学時から卒業までの追跡調査を行うことが要求される。

栄養教諭教職課程履修学生において、「教員に求められる資質能力」の内容項目について、過大評価様相がうかがえたものの、同時に少しずつ浸透、定着しつつあることもうかがわれた。各専攻別の多少の差異は、学修期間、カリキュラムの相違によるものであり、これを免れることは難しい。大学管士は、栄養教諭1種免許取得者、大学栄養、短大栄養は栄養教諭2種免許取得者となる。しかしながら、教育職員免許の種別が異なろうと教職者である。このことから、今後も履修学生には「教員に求められる資質能力」を意識させ、これを向上させるための教育と支援には、各学年における科目およびその集大成として設置された「教職実践演習」の内容を充実させていくことが必要である。

V. 結論

本研究は、栄養教諭教職課程履修終了時における学生の「教員に求められる資質能力」自己評価について、専攻科各々の特徴を明らかにした。

大学管士、大学栄養においては、他研究との照合から履修終了までの2年間で「課題探求」領域のレベルが向上すること。また、大学管士、大学栄養、短大栄養各々の専攻科に共通する領域の中心は、「教科・教育課程に関する基礎知識・技能」であること。さらに、調査対象期間の3年間を通してレベルの向上がみられない項目や各年度における低いレベルの項目について、大学管士では、「子どもの状況に応じた対応」、「学習指導要領」、「道徳教育・特別活動」、「総合的な学習の時間」であり、大学栄養では、「子どもの状況に応じた対応」、「教育課程の構成に関する基礎理論・知識」。短大栄養では、「教育の理念・教育史・思想の理解」、「教育課程の構成に関する基礎理論・知識」であるという、各専攻科の特徴を示唆した。

最後に、栄養教諭は、「学校給食の管理」と「食に関する指導」を職務とする教員である。ゆえに、栄養教諭教職課程履修学生においては、栄養士職と教職各々の専門を融合した考え方を浸透させ、その資質能力を育成することが最大の課題である。

謝辞

本研究の調査にご協力いただきました平成25,26,27年度の大学管理栄養士専攻と栄養学専攻4年生および短大栄養科2年生各々の栄養教諭教職課程履修学生の皆様に深く感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 文部科学省ホームページ (2011), 教職実践演習 (仮称) について,
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337016.htm
- 2) 文部科学省ホームページ (2008), (2)「教職実践演習 (仮称)」の新設・必修化－教員としての資質能力の最終的な形成と確認,
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/attach/1346158.htm
- 3) 青木幸子, 二川正浩, 渡部晃正, 走井洋一, 相良麻里, 中島絹子 (2013), ICT を活用した教員養成教育に関する研究－教職eポートフォリオに関する第一次調査の結果より－, 東京家政大学博物館紀要, 第18集, 39～55
- 4) 岩田昌太郎, 嘉数健悟 (2008), 教育実習における評価基準の項目に関する研究, 広島大学大学院教育学研究科紀要, 第二部, 第57号, 293-300
- 5) 三本木正敏他 (2008), 教育実習における教育実習生への授業評価に関する研究, 福岡教育大学学内プロジェクト「教育実習における教育実習生への授業評価に関する研究～授業評価シートの開発と活用を通して～」報告書
- 6) 宮下 治 (2015), 教育実習評価表に関する現状と課題に関する一考察－愛知県内連携5大学と東京都教育委員会の評価表の比較から－Bulletin of Aichi Univ. of Education, 64 (Educational Sciences), 111-117
- 7) 松本大輔, 川上 貴, 佐藤範男, 松井克行 (2014), 小学校教育実習に関する実習校の成績評価と実習生の自己成績評価の相違に関する検討, 西九州大学子ども学部紀要, 第5号, 71-77
- 8) 上森さくら, 添田晴雄, 滝沢 潤, 辻野けんま (2011), 一般大学の教育実習が学生の自己評価に与える影響－大阪市立大学の教職課程における教育実習の位置づけの明確化に向けて－, 大阪市立大学『大学教育』, 第9巻, 第1号, 1-13
- 9) 八木義仁 (2011), 教育実習における中間自己評価の有用性－教育実習生のアンケート調査を手がかりに－, 大阪教育大学紀要, 第IV部門, 第59巻, 第2号, 229-240

- 10) 山本淳子, 岸本明子 (2006), 教育実習生の役割演技行動とストレス反応、自己評価との関連, 香川教育実践総合研究, 13, 61-69
- 11) 文部科学省ホームページ, 中央教育審議会, 教員に求められる資質能力に関する関連答申,
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo11/shiryo/_icsFiles/afiedfile/2010/08/23/1295827_01.pdf
- 12) 文部科学省ホームページ, 中央教育審議会 (2016), これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い, 高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～ (答申),
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afiedfile/2016/01/13/1365896_01.pdf
- 13) 永嶋由理子 (2002), 看護学生の学習意欲の比較検討－専門学校・短期大学・大学の看護学生について－, 山口県立大学看護学部紀要, 第6号、37-44
- 14) 高口 努他 (2015), 資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究報告書1～使って育てて21世紀を生き抜くための資質・能力～, 平成26年度プロジェクト研究調査報告書, p.87-90

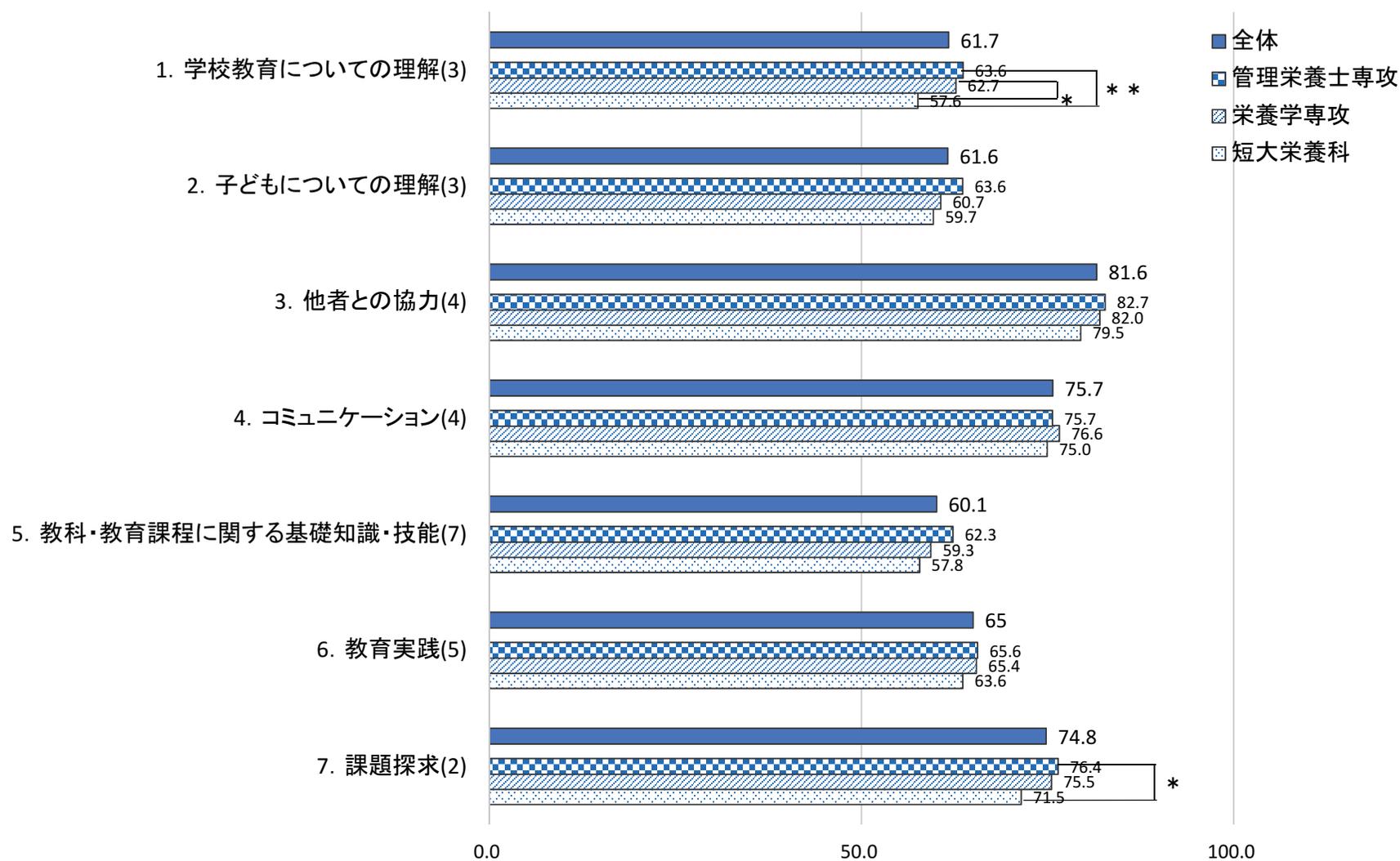


図1 栄養教諭教職課程修了時における学生の「教職に求められる資質能力」自己評価(3年間累計)

()内の数字:領域内項目数、グラフの数値:領域内各項目合計点を100点換算

** : $p < 0.01$ 、* : $p < 0.05$

表1 対象(栄養教諭教職課程履修者)の属性

年度／専攻科	大 学		短大	計
	管理栄養士専攻	栄養学専攻	栄養科	
H 25	47 (15.8)	29 (9.7)	30 (10.1)	106 (35.6)
H 26	29 (9.7)	24 (8.1)	31 (10.4)	84 (28.2)
H 27	49 (16.4)	38 (12.8)	21 (7.0)	108 (36.2)
計	125 (41.9)	91 (30.5)	82 (27.5)	298 (100.0)

人数(%)

表2 「教員に求められる資質能力」7領域相互の関連性(専攻科別)

(1)学校教育についての理解	(2)子どもについての理解	(3)他者との協力	(4)コミュニケーション	(5)教科・教育課程に関する基礎知識・技能	(6)教育実践	(7)課題探求
	0.715	0.440	0.544	0.832	0.584	0.448
(1)学校教育についての理解	0.786	0.537	0.354	0.780	0.498	0.460
	0.756	0.574	0.602	0.812	0.608	0.505
		0.467	0.603	0.746	0.607	0.534
	(2)子どもについての理解	0.642	0.604	0.769	0.631	0.544
		0.548	0.613	0.780	0.623	0.538
			0.713	0.557	0.592	0.737
		(3)他者との協力	0.712	0.584	0.613	0.669
			0.683	0.583	0.698	0.668
				0.617	0.659	0.667
			(4)コミュニケーション	0.459	0.567	0.659
				0.684	0.748	0.686
					0.749	0.618
				(5)教科・教育課程に関する基礎知識・技能	0.700	0.533
					0.776	0.578
						0.692
					(6)教育実践	0.643
						0.731

数値: Spearmanの順位相関係数(r)、上段: 大学管理栄養士専攻、中段: 大学栄養学専攻、下段: 短大栄養科

表3-1 「教員に求められる資質能力」についての自己評価 3力年の変化(大学管理栄養士専攻栄養教諭教職課程履修学生)

大学管理栄養士専攻(栄養教諭教職履修者)		H25年度(n=47)		H26年度(n=29)		H27年度(n=49)		検定結果:ρ値		
「教員に求められる資質能力」7領域28項目		平均	± 標準偏差	平均	± 標準偏差	平均	± 標準偏差	H25-H26	H25-H27	H26-H27
(1)学校教育についての理解	1 教職の意義	7.18	± 1.37	7.04	± 1.60	7.73	± 1.13	0.896	0.109	0.079
	2 教育の理念・教育史・思想の理解	5.29	± 1.43	5.15	± 1.66	6.39	± 1.19	0.910	0.001 **	0.001 **
	3 学校教育の社会的・制度的・経営的理解	5.73	± 1.64	5.41	± 1.53	6.65	± 1.22	0.624	0.007 **	0.002 **
(2)子どもについての理解	4 心理・発達論的な子どもの理解	6.64	± 1.47	6.11	± 1.28	6.90	± 1.08	0.210	0.585	0.032 *
	5 学習集団の形成	6.48	± 1.41	5.74	± 1.65	6.73	± 1.17	0.073	0.636	0.009 **
(3)他者との協力	6 子どもの状況に応じた対応	6.23	± 1.56	5.59	± 1.45	6.08	± 1.10	0.132	0.849	0.299
	7 他者意見の受容	8.50	± 1.02	8.30	± 1.23	8.22	± 1.10	0.725	0.441	0.960
	8 保護者・地域との連携協力	8.64	± 1.01	8.11	± 1.60	8.49	± 1.17	0.179	0.823	0.403
(4)コミュニケーション	9 他者との連携協力	8.62	± 1.13	8.15	± 1.43	8.43	± 1.12	0.241	0.722	0.594
	10 役割遂行	7.74	± 1.36	7.78	± 1.63	7.98	± 1.09	0.994	0.661	0.801
	11 発達段階に対応に対応したコミュニケーション	6.74	± 1.67	6.48	± 1.45	7.24	± 1.23	0.737	0.219	0.079
	12 社会人としての基本	7.85	± 1.47	7.22	± 1.65	7.80	± 1.35	0.183	0.982	0.237
(5)教科・教育課程に関する基礎知識・技能	13 子どもに対する態度	8.02	± 1.34	7.74	± 1.65	7.86	± 1.53	0.716	0.852	0.943
	14 公平・受容的態度	7.79	± 1.23	7.81	± 1.30	7.78	± 1.39	0.996	0.999	0.991
	15 教科の内容	6.53	± 1.59	6.19	± 1.66	6.92	± 1.30	0.605	0.419	0.107
	16 学習指導要領	5.98	± 1.78	5.67	± 1.64	6.43	± 1.19	0.678	0.326	0.100
	17 教育課程の構成に関する基礎理論・知識	5.74	± 1.74	5.33	± 1.69	6.39	± 1.19	0.507	0.103	0.013 *
	18 道徳教育・特別活動	6.06	± 1.76	5.89	± 1.74	6.39	± 1.15	0.885	0.560	0.370
	19 総合的な学習の時間	6.03	± 1.51	5.70	± 1.88	6.51	± 1.21	0.634	0.262	0.066
(6)教育実践	20 情報機器の活用	6.18	± 1.72	5.56	± 2.06	6.55	± 1.34	0.270	0.524	0.037 *
	21 学習指導方法	6.48	± 1.56	5.89	± 1.78	6.86	± 1.17	0.225	0.421	0.019 *
	22 教材分析能力	6.76	± 1.51	6.70	± 1.66	6.84	± 1.30	0.988	0.960	0.924
	23 授業構想能力	6.57	± 1.44	6.41	± 1.72	6.67	± 1.21	0.878	0.938	0.878
	24 教材開発能力	6.81	± 1.62	6.33	± 1.80	6.57	± 1.31	0.414	0.734	0.797
	25 授業発展能力	6.17	± 1.58	6.00	± 1.88	6.69	± 1.52	0.902	0.259	0.180
(7)課題探求	26 表現技術	6.55	± 1.72	6.11	± 1.89	6.65	± 1.22	0.480	0.949	0.328
	27 課題認識と探究心	7.88	± 1.63	8.00	± 1.57	7.76	± 1.55	0.950	0.917	0.795
	28 教育時事問題	7.47	± 1.60	7.26	± 1.58	7.47	± 1.60	0.851	1.000	0.847

数値:VAS法による10段階自己評価を数量化 下線付き数値:全項目中の最低点、最高点 **:ρ<0.01, *:ρ<0.05

表3-2 「教員に求められる資質能力」についての自己評価 3カ年の変化(大学栄養学専攻栄養教諭教職課程履修学生)

大学栄養学専攻(栄養教諭教職履修者)		H25年度(n=29)			H26年度(n=24)			H27年度(n=38)			検定結果:p値		
		平均	±	標準偏差	平均	±	標準偏差	平均	±	標準偏差	H25-H26	H25-H27	H26-H27
「教員に求められる資質能力」7領域28項目													
(1)学校教育についての理解	1 教職の意義	6.71	±	1.27	6.67	±	1.49	7.76	±	1.17	0.991	0.004 **	0.007 **
	2 教育の理念・教育史・思想の理解	4.86	±	1.58	5.95	±	1.63	6.26	±	1.55	0.048 *	0.002 **	0.750
	3 学校教育の社会的・制度的・経営的理解	5.11	±	1.45	5.90	±	1.37	6.50	±	1.61	0.164	0.001 **	0.318
(2)子どもについての理解	4 心理・発達論的な子どもの理解	5.79	±	1.52	6.29	±	1.55	7.05	±	1.39	0.472	0.003 **	0.142
	5 学習集団の形成	5.54	±	1.55	5.95	±	1.50	6.58	±	1.31	0.576	0.012 *	0.246
	6 子どもの状況に応じた対応	5.54	±	1.50	5.24	±	1.73	5.95	±	1.77	0.813	0.589	0.271
(3)他者との協力	7 他者意見の受容	7.93	±	1.44	8.71	±	1.15	8.24	±	1.32	0.105	0.619	0.348
	8 保護者・地域との連携協力	7.75	±	1.58	8.14	±	1.88	8.50	±	1.29	0.652	0.130	0.671
	9 他者との連携協力	8.50	±	1.43	9.05	±	0.92	8.32	±	1.42	0.326	0.841	0.109
	10 役割遂行	7.46	±	1.82	8.24	±	1.45	7.87	±	1.42	0.205	0.555	0.661
(4)コミュニケーション	11 発達段階に対応に対応したコミュニケーション	6.75	±	1.53	6.62	±	1.40	7.13	±	1.46	0.949	0.551	0.407
	12 社会人としての基本	7.89	±	1.59	8.00	±	1.64	8.13	±	1.21	0.965	0.787	0.941
	13 子どもに対する態度	8.11	±	1.59	7.67	±	1.91	8.11	±	1.61	0.636	1.000	0.604
	14 公平・受容的態度	7.61	±	1.77	7.57	±	1.69	7.89	±	1.35	0.997	0.746	0.733
(5)教科・教育課程に関する基礎知識・技能	15 教科の内容	6.00	±	1.44	6.62	±	1.66	7.11	±	1.41	0.322	0.010 *	0.453
	16 学習指導要領	5.14	±	1.72	5.90	±	2.00	6.42	±	1.18	0.224	0.005 **	0.457
	17 教育課程の構成に関する基礎理論・知識	5.18	±	1.91	5.33	±	1.83	6.16	±	1.50	0.948	0.063	0.188
	18 道徳教育・特別活動	5.07	±	1.78	5.67	±	1.91	6.39	±	1.33	0.420	0.005 **	0.234
	19 総合的な学習の時間	4.96	±	1.93	5.24	±	2.05	6.32	±	1.34	0.847	0.007 **	0.132
	20 情報機器の活用	5.25	±	1.84	5.52	±	2.34	6.42	±	1.78	0.877	0.046 *	0.212
	21 学習指導方法	5.43	±	1.81	6.19	±	1.69	6.59	±	1.41	0.238	0.014 *	0.634
(6)教育実践	22 教材分析能力	6.18	±	1.85	6.76	±	1.51	6.93	±	1.46	0.423	0.149	0.918
	23 授業構想能力	6.11	±	1.71	7.00	±	1.52	7.11	±	1.33	0.106	0.025 *	0.964
	24 教材開発能力	6.00	±	1.72	6.48	±	1.78	6.87	±	1.30	0.545	0.072	0.628
	25 授業発展能力	6.11	±	1.66	6.48	±	1.47	6.76	±	1.68	0.713	0.244	0.794
	26 表現技術	5.96	±	1.69	6.29	±	1.71	6.63	±	1.57	0.777	0.237	0.719
(7)課題探求	27 課題認識と探究心	7.43	±	1.53	7.86	±	1.68	7.92	±	1.26	0.567	0.368	0.986
	28 教育時事問題	7.32	±	1.68	6.71	±	2.31	7.74	±	1.52	0.470	0.620	0.095

数値:VAS法による10段階自己評価を数量化 下線付き数値:全項目中の最低点、最高点 **:p<0.01, *:p<0.05

表3-3 「教員に求められる資質能力」についての自己評価 3カ年の変化(短大栄養科栄養教諭教職課程履修学生)

短大栄養科(栄養教諭教職履修者)		H25年度(n=30)	H26年度(n=31)	H27年度(n=21)	検定結果:p値		
「教員に求められる資質能力」7領域28項目		平均 ± 標準偏差	平均 ± 標準偏差	平均 ± 標準偏差	H25-H26	H25-H27	H26-H27
(1)学校教育についての理解	1 教職の意義	5.70 ± 1.53	6.52 ± 1.31	7.64 ± 1.22	0.059	0.000 **	0.013 *
	2 教育の理念・教育史・思想の理解	4.70 ± 1.26	<u>5.16</u> ± 1.16	<u>6.38</u> ± 1.17	0.297	0.000 **	0.002 **
	3 学校教育の社会的・制度的・経営的理解	4.80 ± 1.27	5.35 ± 1.38	6.57 ± 1.24	0.227	0.000 **	0.004 **
(2)子どもについての理解	4 心理・発達論的な子どもの理解	5.53 ± 0.97	6.39 ± 1.33	7.07 ± 1.03	0.012 *	0.000 **	0.090
	5 学習集団の形成	5.40 ± 1.30	5.84 ± 1.10	6.50 ± 1.00	0.304	0.004 **	0.113
	6 子どもの状況に応じた対応	5.50 ± 1.36	5.58 ± 1.50	6.55 ± 1.22	0.972	0.025 *	0.040 *
(3)他者との協力	7 他者意見の受容	7.37 ± 1.13	8.10 ± 0.94	<u>8.79</u> ± 0.82	0.014 *	0.000 **	0.041 *
	8 保護者・地域との連携協力	<u>7.90</u> ± 1.30	7.97 ± 1.25	8.71 ± 1.24	0.976	0.067	0.099
	9 他者との連携協力	7.63 ± 1.25	<u>8.16</u> ± 1.16	8.50 ± 0.97	0.178	0.026 *	0.552
(4)コミュニケーション	10 役割遂行	7.10 ± 1.56	7.55 ± 1.36	8.33 ± 1.17	0.424	0.007 **	0.121
	11 発達段階に対応に対応したコミュニケーション	6.30 ± 1.12	6.81 ± 1.38	7.81 ± 1.09	0.241	0.000 **	0.013 *
	12 社会人としての基本	7.13 ± 1.68	7.42 ± 1.43	8.12 ± 1.14	0.726	0.052	0.214
	13 子どもに対する態度	7.23 ± 1.41	8.03 ± 1.35	8.69 ± 0.95	0.046 *	0.000 **	0.172
	14 公平・受容的態度	7.10 ± 1.37	7.68 ± 1.17	8.60 ± 0.80	0.138	0.000 **	0.019 *
(5)教科・教育課程に関する基礎知識・技能	15 教科の内容	5.70 ± 1.53	5.90 ± 1.22	7.24 ± 1.21	0.825	0.000 **	0.002 **
	16 学習指導要領	5.40 ± 1.33	5.77 ± 1.23	7.17 ± 0.97	0.451	0.000 **	0.000 **
	17 教育課程の構成に関する基礎理論・知識	4.73 ± 1.36	5.35 ± 1.20	6.43 ± 0.94	0.115	0.000 **	0.006 **
	18 道徳教育・特別活動	5.27 ± 1.41	5.55 ± 1.48	6.88 ± 0.92	0.689	0.000 **	0.002 **
	19 総合的な学習の時間	5.30 ± 1.60	5.68 ± 1.51	6.69 ± 1.25	0.584	0.004 **	0.047 *
	20 情報機器の活用	<u>4.53</u> ± 1.76	5.29 ± 1.64	6.60 ± 1.26	0.160	0.000 **	0.014 *
	21 学習指導方法	5.40 ± 1.73	5.81 ± 1.40	7.02 ± 0.84	0.508	0.000 **	0.009 **
(6)教育実践	22 教材分析能力	6.10 ± 1.24	6.29 ± 1.47	7.31 ± 0.90	0.826	0.003 **	0.015 *
	23 授業構想能力	5.90 ± 1.16	6.52 ± 1.34	7.26 ± 1.16	0.129	0.001 **	0.087
	24 教材開発能力	6.03 ± 1.45	6.55 ± 1.39	7.33 ± 0.97	0.285	0.002 **	0.095
	25 授業発展能力	5.60 ± 1.69	6.03 ± 1.58	7.36 ± 1.41	0.537	0.001 **	0.011 *
	26 表現技術	5.40 ± 1.63	6.10 ± 1.42	6.98 ± 1.31	0.162	0.001 **	0.095
(7)課題探求	27 課題認識と探究心	6.73 ± 1.44	7.48 ± 1.46	8.21 ± 1.38	0.108	0.001 **	0.174
	28 教育時事問題	6.37 ± 1.45	6.68 ± 1.60	7.98 ± 1.10	0.675	0.000 **	0.005 **

数値:VAS法による10段階自己評価を数量化 下線付き数値:全項目中の最低点、最高点 **:p<0.01, *:p<0.05

大学・短大__年 管士・栄養__クラス 学籍番号_____氏名			達成度(Visual analog scale)									
「教職に求められる資質能力」についての自己評価(栄養教諭教職課程履修終了時)			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
学校教育についての理解	教職の意義	1 教職の意義や教員の役割、含む内容、子どもに対する責務を理解している										
	教育の理念・教育史・思想の理解	2 教育の理念、教育に関する歴史・思想について基礎理論・知識を習得している										
	学校教育の社会的・制度的・経営的理解	3 学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得している										
子どもについての理解	心理・発達論的な子どもの理解	4 子どもの理解のために必要な心理・発達論的基礎知識を習得している										
	学習集団の形成	5 学習集団形成に必要な基礎理論・知識を習得している										
	子どもの状況に応じた対応	6 いじめ、不登校、特別支援教育などについて、個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法を理解している										
他者との協力	他者意見の受容	7 他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができる										
	保護者・地域との連携協力	8 保護者や地域との連携・協力の重要性を理解している										
	他者との連携協力	9 集団において、他者と協力して課題に取り組むことができる										
	役割遂行	10 集団において、率先して自らの役割を見ついたり、与えられた役割をきちんとこなすことができる										
コミュニケーション	発達段階に対応したコミュニケーション	11 子どもたちの発達段階を考慮して、適切に接することができる										
	社会人としての基本	12 挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的な事項が身についている										
	子どもに対する態度	13 気軽に子どもと顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、親しみを持った態度で接することができる										
	公平・受容的態度	14 子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる										
教科・教育課程に関する基礎知識・技能	教科の内容	15 教科や分野の科目の内容について理解している										
	学習指導要領	16 学習指導要領の内容を理解している										
	教育課程の構成に関する基礎理論・知識	17 教育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得している										
	道徳教育・特別活動	18 道徳教育・特別活動の指導方法や内容に関する基礎理論・知識を習得している										
	総合的な学習の時間	19 「総合的な学習の時間」の指導方法や内容に関する基礎理論・知識を習得している										
	情報機器の活用	20 情報教育機器の活用にかかわる基礎理論・知識を習得している										
	学習指導方法	21 学習指導方法にかかわる基礎理論・知識を習得している										
教育実践	教材分析能力	22 教材を分析することができる										
	授業構想能力	23 教材研究を生かした授業を構想し、子どもの反応を想定し、指導案としてまとめることができる										
	教材開発能力	24 教科書にある題材や単元などに応じた教材・資料を開発・作成することができる										
	授業発展能力	25 子どもの反応を生かし、授業を展開することができる										
	表現技術	26 板書や発問、的確な話し方など授業を行う上での基本的な技術を身につけている										
課題探求	課題認識と探究心	27 自己の課題を認識し、その課題に向けて学び続ける姿勢を持っている										
	教育時事問題	28 いじめ、不登校、特別支援教育などの学校教育に関する新たな課題に関心を持ち、自分なりに意見をもつことができている										